



このところ歩き回っている。ハケ岳の赤岳に登り久しぶりの嵐の前の雲海上の快晴でさえぎるものない展望を楽しんだ翌週は、伊賀の山里の藪の中をたどって、水処理後の排水をどのように自然に戻したら良いかを考え、温泉に入ってどこぞに泊まろうと思っていたが、どこの駅に降りてもホテルが満杯で、ついに夜になって岐阜まで来てしまった。岐阜ならば知っているのすぐに決まり、仕事で一緒に回っていた友人ととりあえず一杯。駅近くの雑多な居酒屋で一息ついた。久しぶりなので岐阜の人とも会えなかったが、仕事からみなで遠慮して、いつものすし屋に電話したら、「待ってます。」と言うので、柳ヶ瀬方面に歩いて行って、縄のれんをくぐると、誰もいない店内のカウンターに二組の仕度が出来ていて、カウンターの後ろで御夫婦の笑顔が一杯で、「お待ちしていました。」と迎えてくれる。旅の途中でこういうほっとした場所と時間とヒトに出会えるのは心にしみてありがたい。いつものようにつまみにしてもらって、酒はいいのがあると言うので見せてもらってから熱燗にいただいた。何を話したかおぼろげだが、みんなよく笑って話した。鮎が二匹良い色をしていたのを、焼きましょうかというのを願ひする。ご主人は釣りも好きだが自分で釣ったやつじゃあないけどと笑っている。最後に少し握ってもらって帰る。翌日はそのまま帰るのもなんだからと金華山に登る。近所のおばさんやおじさんたちがみんな手ぶらで登っている。見知ったもの同士互いに交わす朝の挨拶がすがすがしい。お城から一番遠い公園から登ったから、十分歩き応えのあるハイキングとなってしまった。岐阜の景観が大きく広がってさわやかだ。

一度自宅に帰って、翌朝すぐに出発。同じメンバーで、テントをかついで二日の予定。「俺たちも物好きだよなー。」と言いつつ。今日もまたせせと山に登り始めた。

台風がかすめていった影響で、東西に伸びた稜線をゴーゴーと冷たい北風が渡っていき。狭い稜線は危険なくらいだが、視界はよく効いて遠くまで見渡せる。見渡せるが風の冷たさにじっとしていられず、草陰にもぐりこんでようやく一息ついてにぎりめしを食って更に歩く。夕刻、風下にある静かな東屋にテントを張るが、周囲は風のうなる音と、木々のきしむ音でいっぱいだが、テントにもぐりこんでしまえばどうと言うことはなく、おでんにうどん、乾き物に熱燗と言う居酒屋風メニューで夜は更けていった。夜は冷えて、夏用の寝袋では寒くて、丸まっているうちに夜が開け、まったくの青空がまた広がる。簡単な朝飯の後6時半出発。ぐっしょりした笹に足を濡らしつつ、まだ朝早いうちに360度すべて青空の下に見渡せる最高峰に着き、「ビールビール。」と小屋に殺到したが、犬がほえるばかりで、小屋に人がおらず。ガラスの向こうに缶ビールの山を見つつ、情けない顔を見交わして黙って引き下がる。延々と山を下ったが、山道は荒れていて、一部はふみ跡を確認しながらの下山で、アザミにひっかかりつつ、崩れる道をだましつやつと降り着いたバス停にバスはなく。酒屋の親父さんから、缶ビールを買って、二人のおとつあんはよろよると、はるかバスが来るという村を目指してまた、歩き始めた。途中のコンビニでもう一本買って飲みきった頃ようやくバス停に着き、このたびの旅は終わる。村々は彼岸花がいっぱい咲きみだれ、あちこちの墓地に花があふれていた。

今朝も、豆のつぶれた足で浅草から隅田川の川べりを歩いて両国へ、青い空に雲がどんとどんと流れて追い抜いていった。以上久しぶりにうるつきまわった日々でした。来月はどうなるんだろ。今朝の雲みたいに変変わらず先の見えない日が続いています。